第19回大樹生命ヒーローズカップ　開催要綱

2026.10.20.

1．主催…… 2
2．共催…… 2
3．主管…… 2
4．後援…… 2
5．目的…… 2
6．日程/会場 …… 2
7．大会組織…… 2
8．参加資格…… 2
9．参加チーム…… 2
10. 競技方法…… 3
11. 参加費…… 3
12. 各表彰…… 3
13. 承諾書…… 3
14. 障害者対応について…… 3
15. その他…… 3

●実施規約…… 4
1．出場チームの構成について…… 4
2．選手登録の方法…… 4
3．選手の交替・入替え…… 4
4．シンビン・退場（競技規則第10条等参照）…… 4
5．試合前受付…… 4
6．競技時・ハーフタイム時の諸注意…… 4
7．安全対策、脳震盪の報告義務、その他…… 5
8．負傷時の対応について…… 5
9．救急車の要請について…… 5
10. 規定のチーム構成人数未満による試合…… 5
11. ドレスチェックについて…… 5
12. 服装の統一について…… 5
13. プレーヤーの着こなし…… 6
14. ラグビーマナー…… 6
15. セーフティアシスタント（SA）について …… 6
16. 試合中のウォーターブレイクについて…… 6

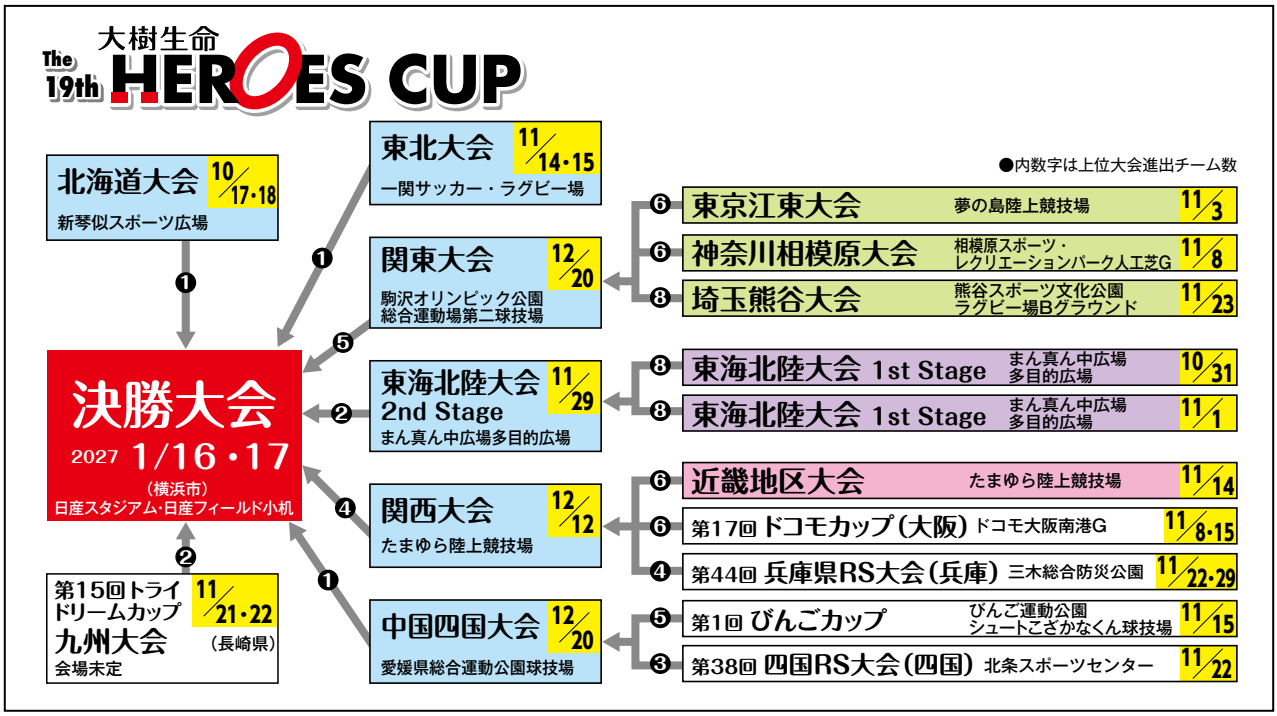
●安全対策規程…… 7
1．安全対策に必要な人員
2．試合環境の整備
3．参加チームの安全対策について
4．レフリー

＜レフリングの指針＞…… 8
1．安全を最優先
2．厳格な判定
3．コンテストの正確な判定

＜レフリングガイドライン＞…… 8
1．危険なプレーについて（安全のために）
2．キックオフ
3．スクラム
4．ラインアウト
5．ペナルティキック
6．キック

●個人情報及び肖像権に関わる取扱いについて…… 9

●参加承諾書……10



１．主　　催　NPO法人ヒーローズ

２．共　　催　（決勝大会）横浜市・神奈川県

３．主　　管　ヒーローズカップ実行委員会

４．後　　援　スポーツ庁
東京都 ※東京江東大会・関東大会　埼玉県 ※埼玉熊谷大会　神奈川県 ※神奈川相模原大会
郡上市 ※東海北陸大会　岐阜県ラグビーフットボール協会 ※東海北陸大会
枚方市 ※近畿地区大会・関西大会　（昨年度実績・今年度申請中）

５．目　　的　「こども世代へのラグビー普及と育成」を基本理念とし、ミニ・ラグビーの全国規模の交流試合を行い、ラグビーの試合を通じて健全な精神と身体を養うことを目的とし、参加する全ての子どもたちに、夢と希望と感動を与えられる大会を目指す。
また、ヒーローズカップは優勝を目標とするが目的ではなく、小学生が勝ったり負けたりする体験を通して、悔しさうれしさを感じ、思いやる心が育まれ成長していくことを目的とする。

６．日程/会場

北海道大会	2026年10月17日・18日	新琴似スポーツ広場
東北大会	2026年11月14日・15日	一関サッカー・ラグビー場
東京江東大会	2026年11月３日	夢の島陸上競技場
神奈川相模原大会	2026年11月８日	相模原スポーツ・レクリエーションパーク人工芝グラウンド
埼玉熊谷大会	2026年11月23日	熊谷スポーツ文化公園 ラグビー場B
関東大会	2026年12月20日	駒沢オリンピック公園総合運動場第二球技場
東海北陸大会（1st Stage）	2026年10月31日	まん真ん中広場多目的広場
	2026年11月１日	まん真ん中広場多目的広場
東海北陸大会（2nd Stage）	2026年11月29日	まん真ん中広場多目的広場
近畿地区大会	2026年11月14日	たまゆら陸上競技場
関西大会	2026年12月12日	たまゆら陸上競技場
中国四国大会	2026年12月20日	愛媛県総合運動公園球技場
決勝大会	2027年１月16日・17日	日産スタジアム・日産フィールド小机

７．大会組織　⑴　本大会の開催に際しては、大会実行委員会を組織する。
⑵　大会実行委員会には、委員長、副委員長、委員を任命する。
⑶　各大会毎に運営委員会を組織する。
⑷　これらの組織をもって、円滑な大会運営を図ることとする。

８．参加資格　次の⑴～⑶に該当する者からなるチーム
⑴　公益財団法人日本ラグビーフットボール協会に2026年度のチーム登録が完了した各都道府県ラグビーフットボール協会所属のラグビースクールにおいて「プレーヤー」として2026年度の個人登録が完了した小学校６年生および５年生。
⑵　保護者が大会への参加を承諾した選手であること（承諾書提出）。また、大会参加にあたっては指導員等の引率者を必要とする。
⑶　出場チームから公益財団法人スポーツ安全協会の「2026年度スポーツ安全保険」への加入が完了した者。

９．参加チーム　⑴　１スクール１チームとする。
⑵　合同チームのエントリーを可能とする。
※５・６年生の登録人数（リザーブを含む）が13名以上確保できるスクール同士による合同チームでの参加はできません。
ただし、合同チームを構成するスクールのうち、少なくとも１スクールが５・６年生の登録人数12名以下で、単独での出場が困難な場合は、他のスクールが13名以上の登録人数を確保している場合であっても、合同チームでの参加を認めます。

(3) 北海道大会は北海道のチーム。
東北大会は東北地方のチーム。
関東大会は関東地方および近隣（静岡県を含む場合がある）のチーム。
東海北陸大会は、東海北陸地方および近隣（長野県を含む場合がある）のチーム。
近畿地区大会は、大阪・兵庫を除く近畿地方のチーム。
関西大会は、大阪推薦６チーム・兵庫推薦４チーム・近畿地区大会から６チームの計16チームで行う。
※関西大会には、大阪府からはドコモカップの上位６チーム。兵庫県からは兵庫県ラグビースクール大会の上位４チームをそれぞれ推薦する。
中国四国大会は、中国推薦５チーム・四国推薦３チームの計８チームで行う。
※中国からはびんごカップの上位５チーム。四国からは四国ラグビースクール大会の上位３チームを推薦する。
決勝大会は、北海道大会１チーム、東北大会１チーム、関東大会５チーム、東海北陸大会２チーム、関西大会４チーム、中国四国大会１チーム、九州推薦２チームの計16チームで行う。

10. 競技方法 (1) 公益財団法人日本ラグビーフットボール協会制定の『令和４年改訂版 U-12 ミニラグビー競技規則』による。
(2) 組み合わせは各大会毎に抽選にて決定する。
(3) 試合時間は、各大会毎に異なるが、１日２～４ゲームを行い、１日の総ゲーム時間は60分を超えないものとする。

11. 参 加 費 参加チームから大会運営費の一部として、**全ての大会毎（1st・2nd Stage毎）に15,000円を徴収**。
（例：東海北陸大会1st→2nd→決勝大会へ参加の場合は合計45,000円となる）
※決勝大会を含む全ての大会に参加する遠征費・交通費は各チームでの負担とする。
決勝大会への遠征費補助については、補助がない可能性があることをご承知おきください。

12. スポーツ庁長官賞 決勝大会優勝チームへスポーツ庁より『スポーツ庁長官賞』を贈呈する。（昨年度実績）
横浜市長賞 決勝大会優勝チームへ横浜市より『横浜市長賞』を贈呈する。（昨年度実績）

13. 承 諾 書 ヒーローズカップは、ラグビーの試合を通じて健全な精神と身体を養い、中学・高校・大学とラグビーを生涯スポーツとして続けることを目的としており、下記の事項を承諾頂き、署名・捺印の承諾書提出が必要です。
１．選手自らが大会参加を望んでいること。
２．チームや仲間の為などとして指導者及び保護者が参加を強く求めないこと。
３．怪我をしている、又は、マッチドクターに競技続行不可能と判断された場合、当該選手は当日の試合には出場することができない。
４．選手が過度な体重増減量や過密な練習で疲労が蓄積していない状態であること。
５．選手として心身共に大会に参加できる万全の状態であることを確認し、保護者として承諾できる場合には、承諾書を提出する。
６．所属チームがヒーローズカップへの参加申込の際に、個人情報及び肖像権の取り扱いについて承諾していることを保護者として認識していること。

14. 障害者の試合観覧および対応について
障害者が大会に来場された際には障害者用の観覧スペースを設ける。
補助、介助が必要な場合は障害の程度に応じて人員を配置する。

15. そ の 他 各大会毎にマッチドクターを配置する。負傷に対して応急処置は行うが、大会主催者が以降の責任は負わない。マッチドクターに競技続行不可能と判断された場合、当該選手は当日の試合には出場することができない。
選手の健康管理には十分注意すること。選手は健康保険証を持参すること。

第19回 大樹生命ヒーローズカップ 実施規約

1．出場チームの構成について

各大会（地区大会、決勝大会）出場に必要な選手以外のスタッフについては下記の通りとする。

（1）大会に出場するチームのベンチ入りできるスタッフの構成は、以下の通りとする。

①試合責任者（必須）	1名	〈試合出場チームの責任者〉
②セーフティアシスタント（必須）	1名	〈セーフティアシスタント（SA）資格保有者〉
③監督・コーチ（任意）	任意	〈グラウンド（ベンチ）へ入る最大人数は各大会で規定する〉

※①、②、③のいずれかにスタートコーチ以上の指導者を大会に帯同させなければならない。

※大会当日にスタートコーチ以上の指導者・セーフティアシスタントが帯同できない場合は、その旨を大会本部に伝えること。

（2）参加チームから運営スタッフを選出する場合は下記の条件を満たすこと。

①レフリー（随時）	1名	〈ミニラグビーレフリー（MRR）以上〉
②アシスタントレフリー（随時）	1名	〈ミニラグビーレフリー（MRR）以上〉
③競技補助役員（随時）	任意	〈競技委員の補助業務（第3AR、記録、ボールパーソン等)〉

2．選手登録の方法

（1）各大会への出場選手登録は、「第19回大樹生命ヒーローズカップ開催要綱」の「8．参加資格」の（1),（2),（3）の要件を満たす者の中から人数制限なく登録できる。

（2）ヒーローズカップへの出場推薦チームを選考する大会を含む各大会において、チームの移籍をして次の大会へ出場することは認めない。選手は、ヒーローズカップへの出場推薦チームを選考する大会を含むどれかの大会で、最初に出場登録をしたチームで最後まで出場登録することとする。二重登録も認めない。

（3）上記選手登録に疑義が生じた場合、大会実行委員会にて出場を取り消す場合がある。違反して選手登録又は出場をした場合、次回から当該チームの参加を認めないことがある。

3．選手の交替・入替え

（1）選手の交替・入替えの際には、監督・コーチ又は選手自身が当該試合担当の第3ARに申し出、第3ARの指示に従って交替・入替えを行う。

（2）一度の交替・入替えは3名までとする。但し後半開始時は交代・入替え人数の制限はなく、第3ARへの申し出も不要。

（3）いったん交替により退いた選手の再出場も認める。

4．シンビン・退場（競技規則第10条等参照）

（1）シンビン（一時的退出）となったプレーヤーは、本部席前の所定の場所に待機しなければならず、レフリーが許可するまで、フィールド・オブ・プレーに入ってはならない。

（2）シンビンの時間は試合時間により異なり、ハーフタイムの時間は含まれない。シンビンの時間は次のプレーが再開した時点から計測し、第３AR及び本部席で時間の管理を行う。

※15分～13分ハーフ＝４分・13分～９分ハーフ＝３分・８分～７分ハーフ＝２分（ストレートの場合も同様）

（3）同一試合で２回目のシンビンを受けた選手は、そのまま退場となりゲームに再出場することはできない。
また、各大会共通で次の１試合（上位大会含む）は自動的に出場停止となる。

（4）シンビンの累積による退場以外の事由（不行跡等）で退場となった選手は、各大会運営委員会で処分を決定する。
なお、各大会共通で次の１試合（上位大会含む）は出場停止となる。

5．試合前受付

（1）試合当日、各大会競技委員が指定する時間に試合責任者は代表者会議に出席し、出場選手およびスタッフに関して、事前登録通りであるかを報告すること。

（2）各大会運営委員会より当日必要な伝達を行うので、代理の者でなく必ず試合責任者本人が出席すること。

（3）代表者会議終了後、各大会のスケジュールにより、ドレスチェック・装身具のチェックをレフリーが行う。このドレスチェックを受けていない選手は試合に出場できない。

（4）チームからレフリー、アシスタントレフリー、競技補助役員を選出した場合、必ず大会当日のブリーフィングに参加し、レフリー委員、競技委員に申し出、当日の割当を確認すること。

6．競技時・ハーフタイム時の諸注意

（1）試合に使用するボール（４号球）は、大会本部にて用意する。

（2）試合時間はタイムキーパー制で行う。（キックオフ前半・後半の開始は、本部からのキックオフの合図後。ノーサイドは本部からの合図の後、デッドになった時点。ロスタイムなし。）
但し、負傷対応等で継続して３分を超える試合中断が発生した場合、競技委員のグラウンド責任者が、「レフリータイム」の判断を行い、レフリーよりその旨を両チームキャプテンに伝達し、レフリーの責任で終了する。

（3）両チームのジャージが似ている場合は、競技委員とレフリーがチームと相談のうえ対応を決定。
（4）試合中は、チームは所定のベンチエリア内で待機する。試合中チーム関係者はうろうろしないこと。ゲームの進行とともに移動して応援をしたり、指示をしないこと。
（5）ベンチ内であってもチーム関係者は、試合中のプレーヤーに対する指示を禁止とし、適切な応援を心がけること。
（6）グラウンドへ水を持ち込む場合には安全な容器を用いること。（ビン等は不可）
（7）同点で試合終了になり、次戦進出チームを決定しないといけない場合は、抽選にて次戦進出チームを確定する。その際、アフターマッチファンクション終了後、抽選にはチームキャプテン１名、当該試合レフリー、大会実行委員の４者で公平に抽選を行う。（リーグ戦の場合は順位確定方法の全てが同ポイントであれば抽選を行う）
（8）試合終了後、アフターマッチファンクションを実施。
・キャプテンによる相手に対する感想、担当コーチからの講評、レフリーからの講評
・エール交換
・握手

7．安全対策、脳震盪の報告義務、その他

（1）試合参加にあたっては、あらかじめ健康診断を受ける等、プレーヤーの健康管理に充分配慮すること。
（2）脳震盪を起こした疑いのある、あるいは脳震盪と診断された選手は退場させる。試合中に脳震盪で退場したプレーヤーが出た場合には、チーム責任者は所定の用紙によって報告の義務がある。
（3）脳震盪を起こした疑いのある、または、脳震盪と診断された選手は、必ず“ワールドラグビー脳震盪ガイドライン”にある「段階的競技復帰プロトコル（GRTP)」に従って復帰すること。
（4）頭部打撲により、一時退場をしたプレーヤーは例え脳震盪・脳震盪疑いではないとドクターより判断されたとしても、安全を第一優先とする為、当該試合で再出場は認めない。しかし、マッチドクターにより脳震盪・脳震盪疑いではないと判断された場合は、次試合以降の試合には出場できる。
（5）インフルエンザ又は新型コロナ等伝染性疾患と診断もしくは認められる選手は、各チームの責任において出場を辞退すること。
（6）試合中のドクターの投入はレフリーが判断するが、担架の使用についてはドクターの判断に従う。

8．負傷時の対応について

プレー中、選手が負傷した場合、レフリーは試合を中断し、ドクターを呼び、負傷状況を確認する。ドクターが試合続行を認めない場合は、レフリーは速やかに当該チームに選手交代を要請する。その際、自チームのセーフティアシスタントからの助言（例、まだやれます…等）は禁止とし、決してドクターの判断に異を唱えてはならない。
レフリーは、選手の安全のために、プレーの継続が不可と認めたプレーヤーの出場を制限することができる。

9．救急車の要請について

試合中の負傷により、救急車を要請する場合は、マッチドクターから大会役員を通じて要請するので、チーム関係者は、直接要請しない。
試合中以外で救急車要請する場合、必ず、大会本部を通じて要請すること。

10. 規定のチーム構成人数未満による試合

１チームにつき規定の人数（９名）より少ないプレーヤーによる試合は、試合途中において怪我や病気により出場選手が８名まで許可される。但し、試合開始時点では、９名の健康な選手を揃えなければならない。揃えられない場合は当該チームを不戦敗とする。その場合、他のチームから選手を借りて交流試合として試合を実施することができる。

11. ドレスチェックについて

（1）各大会の指定された時間にレフリーが参加選手全員のドレスチェックを行う。
（2）爪・スパイクチェック・ヘッドキャップ/ゴーグルのワールドラグビー承認マークの確認・サポーターの確認。
※ヘッドキャップは、ワールドラグビー承認マーク以外に、IRB承認マーク、WORLD RUGBY TRIAL も認める。

12. 服装の統一について

（1）ジャージ・パンツ・ストッキングは、チーム全員統一されていることが基本ではあるが、コンバインドチームでの参加の場合、パンツ・ストッキングの統一までは求めない。
（2）スパイクについて／非金属製の固定式スタッド及びブレードタイプのものとし、取替え式スタッドの使用は禁止する。
（3）ジャージ、その他の用具に血液が付着した場合には、直ちに取り替えなければならない。ジャージの損傷、血液の付着に対応するためスペアージャージを準備すること。
（4）プレーヤーは必ずヘッドギヤを着用すること。（U12 競技規則第４条３.c）
（5）プレーヤーに合ったマウスガードを装着することを強く推奨する。
（6）男女共ロングスパッツの着用を認める。但し華美なロングスパッツは避け、短パン同系色または白・黒・紺とする。
（7）指先を切った手袋のみ着用を許す。指先まで覆う手袋は着用できない。

（8）ワールドラグビーの承認マークが付いたゴーグルであれば着用を認める。
（9）試合に使用するジャージには背番号があるものを推奨する。試合中レフリーやARからのプリベントを容易にし、交代時の簡素化をはかる為。

13. プレーヤーの着こなし

（1）参加選手はラグビープレーヤーとしてふさわしい服装、身だしなみを心がける。
（2）選手は以下の着こなしを遵守すること。レフリーや競技委員から指摘される前に、各自、各チームで正すこと。
①ストッキングはきちんと上げる。試合中にずり落ちないようテープ等できちんと止めること。
②パンツの上に出たジャージは、常に注意してパンツの中に入れる。
③ジャージのエリを内側に折り込まない。
④ジャージのソデを極端にたくし上げたり、テープで止めたりしない。
（3）ドレスチェック時に、レフリー及び競技委員が服装、スタッド等の確認を行う。選手は、レフリーと競技委員の指示に従うこと。
（4）ドレスチェックで不許可となったものを競技区域で着用していた場合には、その時点で「競技規則」第４条７により退場とするが、交代選手の出場を許可する。退場した選手は、服装を正したら、レフリーの許可を得て競技に復帰できるものとする。
（5）服装規定に関して不明な点は事前に各大会運営委員会まで問い合わせをする等、当日のドレスチェックの際にトラブルが起こらないよう、事前徹底、再確認を充分しておくこと。

14. ラグビーマナー

（1）レフリーへの批判、選手への感情的発言・暴言・セルフジャッジ等々非紳士的言動は厳禁する。
選手以外の監督・コーチ・その他スタッフ、保護者、応援団も同様に禁ずる。
試合中は、建設的な応援・励ましを心がけ、レフリー・両チームの選手への敬意と尊敬の念を忘れないこと。
試合中において、コーチ、保護者、観戦者からプレー中の選手への指示は、一切禁止とする。
（2）各大会の会場（グラウンド内、更衣室とグラウンドとの往復等を含む）では、選手、指導者、スタッフ、保護者等全員が公共空間でのマナー保持に充分注意すること。
（3）ゴミ（グラウンド内ばかりでなく更衣室等のゴミも含む）は、会場内のゴミ箱に捨てず、必ず各自、各チームで持ち帰ること。チームはゴミ袋を用意して、すべてのゴミを持ち帰ること。
（4）会場内（グラウンド・駐車場等）は、許可された喫煙場所がある場合を除いて全面禁煙とする。
（5）会場周辺の公道への違法駐車は厳禁する。
（6）チームごとに試合のライブ配信をする場合は定められた場所で行うこと。

15. セーフティアシスタント（SA）について

（1）SAは、試合前にレフリー及び、マッチドクターと互いに確認を行い、試合中の連携を心がける。
（2）SAは、自チームだけでなく相手チームの負傷者にも対応する。自チームの左側サイドに待機すること。
（3）SAは、必要に応じて試合中にグラウンドへ自由に入ることができる。
声援やプレーの指示は絶対に行わない。（選手の安全確保を考慮した指示を除く）
（4）SAは、各大会の競技委員の指示に従って、SAビブスを着用する。
（5）原則としてSAは、自チーム帯同のSAが必要だが、どうしても困難な場合、事務局（大会開催まで）、大会本部（大会当日）へ事前に相談すること。
（6）各大会によりSA会議を当日設ける場合は、SAは必ず出席すること。
（7）試合中SAはベンチには入らず、所定の位置で負傷者への対応を最優先に行う。
（8）大会当日、セーフティアシスタント制度認定証を持参すること。

16. 試合中のウォーターブレイクについて

（1）試合中のウォーターブレイクは前半・後半共に、試合時間の半分を目安にレフリーの判断により行う。
（2）トライ後などのウォーター給水を廃止する。
（3）ウォーターブレイクはベンチに戻らず、ウォーター係（ビブス着用）がフィールド内にウォーターを持ち込む。
選手はタッチラインもしくはゴールラインからからの３mラインより外に出ないこと。
（4）ウォーター係はフィールド内にウォーターを持ち込み、３m以上離れ待機する。
（5）ウォーター係（ビブス着用）は控え選手（３名まで）が対応すること。スクイズボトルや水筒などの持ち運びの為、スクイズボトル入れやカゴ・カバンなどの活用を奨励する。キャリーカート等はグラウンド内使用不可の会場がある為、使用には必ず各運営委員会の指示に従うこと。
（6）12名以下のチームの場合に限り、コーチがウォーター係を対応することを可能とする。
※控え選手の怪我等で例外に許可する場合がある。
（7）ウォーター係からの選手への指示は禁止とする。

第19回 大樹生命ヒーローズカップ 安全対策規程

ヒーローズカップでは、安全を最優先とします。積極的に安全対策を行うことによって、危険の予知と予防、万が一の事故の際に適切な処置ができるようにするため、各大会に関する安全対策規程を下記の通り定めることとします。

1．安全対策に必要な人員

（1）安全に試合を進行し、負傷や事故にすぐに対応できるように、下記の通りの安全スタッフを配置すること。

① マッチドクター

競技場の隣接する２グラウンドに対して、１名以上配置する。

協会登録の医務委員またはセーフティアシスタント（SA）資格保有者が望ましい。

実行委員会によりマッチドクターの補助として、柔道整復師、トレーナーなどの資格者を配置することがある。

② セーフティアシスタント（SA）

各試合各チームから１名、セーフティアシスタント（SA）資格保有者を選出する。

③ 競技委員

各試合に１名以上。安全なゲーム進行を見守る。

2．試合環境の整備

（1）水源の確認（水道水および飲料水のチェック）。

（2）氷の準備。

（3）救急バッグの準備。

マッチドクターと事前に確認を取り、運営側で準備をする。

〈内容物の目安〉テーピング用テープ、三角巾（４枚以上）、はさみ（２本以上）、体温計（２本以上）、綿花、単ガーゼ、消毒セット（ディスポ10本以上）、絆創膏、包帯、バンドエイド、コールドスプレー、ネット、弾力包帯、担架 etc

（4）ドクター待機場所の準備

医務室のない会場では、医務テントの設置が望ましい。

救急バッグ・水・氷・AED（リースも可）を設置。

（5）救急受け入れ医療機関の事前確認

当日、大会が行われることを付近の医療機関に事前連絡をして、救急受け入れ先を確認しておく。

（6）グラウンドの準備

複数グラウンドで同時に行う時は、競技区域の間隔を充分空ける。（タッチラインの共有はしない）

必ず試合前に、グラウンドおよび周辺を競技委員その他スタッフでチェックする。

3．参加チームの安全対策について

（1）各チームに安全対策委員（安全推進講習会受講者または、セーフティアシスタント（SA）資格保有者または、試合責任者）を選出し、チームの安全対策を実施すること。

（2）セルフチェックシートの利用や、健康診断の実施等、選手の体調管理を普段から行い、試合当日は保護者から選手の健康状態をヒアリングして、選手の健康状態を充分に把握しておくこと。

（3）体調に異常所見が認められる選手、体調不良の選手を出場させない。

（4）安全第一で正しい指導を心がけること。危険なプレーにつながる言動を行わないこと。

（5）ラグビーに適した服装で試合に参加し、爪のチェックを行う。

（6）試合後および試合の合間は、防寒具等を着用し体を冷やさないようにする。

（7）ウォームアップ・クールダウンを充分に行わせ、障害の予防をする。

（8）安全プレーを推進し、タックルの基本姿勢、ラック・モールの姿勢を、充分に指導しておく。

4．レフリー

（1）安全なレフリングを最重要とし、危険な反則に対しては特に厳しく対処する。

（2）積極的にプリベントコールを行い、反則と危険を未然に防ぐ。

（3）コンタクトプレーにおいてバインドをするように指導する。ノーバインドによるコンタクトに対しては、事前に声をかけて予防し、もし発生したら単に反則を取るだけでなく、事後によく注意する。

（4）体調不良、怪我等で継続不可と判断する選手には、プレーを続行させない。

＜レフリングの指針＞

１．安全を最優先

スキルレベルが向上し、最新のスキルをコーチングされたプレーヤーが増えてきたとしても、小学生の大会として最重要である「安全性」を重視する。危険なプレーや危険な結果が予想されるプレーに対しては、トップレベルで容認されているプレーであっても、レフリーは笛を吹いてプレーを止め、ペナルティの判定またはイエローカード以上の対処をする。体格差が原因で危険な状態になる、または予想される場合も、「安全性」を最重要と考え、レフリングを実践する。

２．厳格な判定

意図的に反則をし、ゲームを有利に進めて勝ちにつなげる行為は、小学生の大会ではあってはならないと考える。意図的な反則、反則の繰り返しに対してレフリーは厳しく判定し対処する。また、レフリーに対する暴言についても、プレーヤーだけでなく競技規則第10条８にもある通り、コーチやチーム関係者についても同様に厳しく対処する。

３．コンテストの正確な判定

安全を最優先し、不行跡・不当なプレー・意図的な反則を厳格に判定し、コンテストの正当性を追求していく。
安全とコンテストプレーのバランスを保ちながら判断、判定を正確に行い、楽しくプレーが継続できるようにレフリングを行う。

＜レフリングガイドライン＞

競技規則は、令和４年改訂版 U-12 ミニラグビー競技規則に準じる。

１．危険なプレーについて（安全のために）

安全を最優先したゲームコントロールを行う。
① いわゆる「亀ラック」＝スクイーズボール（U19.第15条15.5）→ 直ちにペナライズした上で注意をする
② ローヘッド（U19.第10条10.4 (t)）→ 直ちにペナライズした上で注意をする
③ 危険なプレー（第9条11-25）→ 直ちにペナライズした上で注意をする

２．キックオフ

正しいキックオフの遂行と、プレーが止まったときに素早い判定を行う。
① キックオフしたボールが５ｍを越えない → センタースクラム
② キックオフしたボールが直接タッチに出る → センタースクラム（ラインアウトのオプション有り）
③ ドロップキックで正しく蹴らなかった → やり直し → 状況に応じてセンタースクラム（フルラグビーのルールを基に）

３．スクラム

正しいスクラムの遂行と、スクラム解消時の正確な判定を行う。
① オフサイドの解消 → ハーフバックが手または足でボールに触れたとき
（ハーフバックが足を使って、投げやすい位置に動かすことも触れたと見なす）
② ハーフバックがボールに触る前に、攻撃側がオフサイドラインを越えて走り込みボールをもらう
→ オフサイドのペナルティを正しく判定
③ ゴールから５ｍ未満では形成されない（ラインアウト・ペナルティも同様）
④ スクラムが終了するまでバインドさせる。（第20条20.1 (f)）
→ 注意してもバインドを外して飛び出したらペナルティ（第20条20.1 (a) を適用）
⑤ ボールインの確認・徹底 → 転がして入れるように指導
⑥ スクラムのフットポジションは平行であること → 平行にとるように指導
⑦ スクラムのレフリーのコーリングは「クラウチ、タッチ、ホールド、エンゲージ」の４段階であること

４．ラインアウト

正しいラインアウトの遂行と、ラインアウト解消時の正確な判定を行う。
① クィックスローは認めない
② バックスのオフサイド解消 → ラインアウトが解消（終了）したとき
③ ８ｍを越えて投げ入れる（ラインアウトに並んでいるプレーヤーが誰も触れていない場合）→ やり直し
④ 先頭に立つプレーヤーが、ボールが３m投げ入れられることを妨げる → ８ｍでフリーキック
⑤ ハーフバックがキャッチせずにワンバウンドになった場合 → ハーフバックが触れた時点で解消
⑥ ワンバウンドのボールをラインアウトプレーヤーが触れたとき → その時点で解消
⑦ タップしたボールがラインオブタッチから５ｍを越えたとき → その時点で解消
⑧ ハーフバックとラインアウトプレーヤーがポジションチェンジするのは可能。
ただし、スロワーがボールを投げ入れ、ラインアウトが開始されるときには、二人並んでいること。

５．ペナルティキック

クィック時に特に注意して、正しいペナルティキックを遂行する。
① ボールを地面に置かないで蹴る → やり直し
② キックは明確に → いずれかの方向に蹴り進めること
③ 勢いよく走り込んでボールをもらうプレー → PKだがキックしてからスタートするように注意
④ ノット５ｍの２度目は、間をおいてポイントを示し５ｍを取らせてからプレーさせる

６．キック

一般のプレー中のキックに対し、正しい判定を行う。
① 地上にあるイーブンボールを意図なく蹴る行為（いわゆる「フライキック」U12競技規則第9条20（h））→ ペナルティ
② ダイレクトタッチ → 10mラインの外側から蹴った場合は、蹴った地点でスクラム。（U12競技規則第18条）
③ テイクインバックの適用 → あり（シニアと同じルール）蹴った地点でスクラム。
④ ハーフタイムやフルタイムで外へ蹴り出す → OK

第19回 大樹生命ヒーローズカップに関する
個人情報及び肖像権に関わる取扱いについて

NPO法人ヒーローズ

特定非営利活動法人ヒーローズ（以下「NPO法人ヒーローズ」という。）は、大会参加申込書等を通じて取得する個人情報及び肖像権の取扱いに関して以下の通り対応します。

１　参加申込書に記載された個人情報の取扱い

⑴大会プログラムに掲載することがあります。

⑵競技会場内でアナウンス等により紹介されることがあります。

⑶氏名・学校名・学年については、報道の正確性を期すため、大会開催前に報道機関に提供することがあります。

⑷大会スポンサーに対して、提供することがあります。

２　競技結果（記録）等の取扱い

⑴NPO法人ヒーローズ、又はこれらに認められた報道機関、大会スポンサー等により、新聞・雑誌及び関連ホームページ・SNS等で公開されることがあります。

⑵競技会場内外の掲示板等に掲載されることがあります。

⑶組合せ等の内容が大会関連ホームページに掲載されることがあります。

⑷大会プログラム掲載の個人情報とともに、ヒーローズが作成する大会報告書（以下「報告書」という。）に掲載されることがあります。

⑸記録、優勝及び上位入賞結果（記録）等は、次年度以降の大会プログラムに掲載されることがあります。

３　肖像権に関する取扱い

⑴NPO法人ヒーローズに認められた報道機関や大会スポンサー等によって撮影された写真が、新聞・雑誌・報告書及び関連ホームページ・SNSや、TVCM等で公開されることがあります。

⑵NPO法人ヒーローズに認められた報道機関や大会スポンサー等によって撮影された映像が、中継・録画放映及びインターネット・SNSにより配信されることがあります。また、DVD等に編集され、配布されることがあります。

⑶この他、NPO法人ヒーローズに許可を受けた写真撮影企業等によって撮影された写真等が販売されることがあります。

４　NPO法人ヒーローズの対応

⑴取得した個人情報を前記利用目的以外に使用することはありません。

⑵**参加申込書の提出により、前記取扱いに関する御承諾をいただいたもの**として対応させていただきます。

⑶大会役員、競技委員、運営委員、その他各種委員や補助員、ヒーローズカップに関する契約をしている者、大会運営関係者及び会場に来られた観客の皆様につきましては、前記取扱いに関する御承諾をいただいたものとして対応させていただきます。

参 加 承 諾 書

第19回大樹生命ヒーローズカップは**行き過ぎた勝利至上主義には明確に反対**しています。

今後長く続くラグビー人生において、ヒーローズカップは最終目標ではなく、無理をして、無理をさせて大会に参加させる行為には、断固として反対をします。その上で、下記の内容にご承諾頂ける場合は、保護者よりご署名・捺印をお願い致します。

記

1．選手自らが大会参加を望んでいること。

2．チームや仲間の為などとして指導者及び保護者が参加を強く求めないこと。

3．怪我をしている、又は、テーピングなどで過度に怪我をかばっての参加ではないこと。

4．選手が過度な体重増減量や過密な練習で疲労が蓄積していない状態であること。

5．選手として心身共に大会に参加できる万全の状態であることを確認し、保護者として承諾できる場合には、承諾書を提出する。

6．所属チームがヒーローズカップへの参加申込の際に、個人情報及び肖像権の取り扱いについて承諾していることを保護者として認識していること。

※個人情報及び肖像権に関わる取扱いについてはQRコードで確認できます。

スクール名			
選手氏名	自署	学年	年
保護者氏名	自署	印	

ヒーローズカップは、優勝を目標とするが目的ではありません。
小学生が勝ったり負けたりする体験を通して、悔しさやうれしさを感じ、思いやる心が育まれ成長していくことを目的としています。